# シニア人材活用へNPO

## 慶応大の渡邊氏ら中心

臨床検査を担う人材の育成や質向上を支援する目的でNPO法人「臨床検査支援協会」がこのほど発足した。慶應義塾大学名誉教授の渡邊清明氏が理事長を務め、臨床検査の技術向上や精度確保、学術講演会の開催などを支援する。支援活動の担い手として、病院等の検査室を退職した臨床検査技師などシニア人材の活用を検討する考えだ。

左から副理事長の髙加國夫氏、理事長の渡邊清明氏、理事の小川眞史氏

### 人材育成など支援

副理事長には、関西医科大学名誉教授の髙橋伯夫氏、昭和医療技術専門学校臨床検査技師科特任教授の髙加國夫氏が就任。理事に小川眞史氏（日本臨床衛生検査所協会理事）、石橋みどり氏（新東京病院臨床検査室部長）、今哲昭氏（積水メディカル）、監事に寺本哲也氏（栄研化学取締役会長）が就任した。

日本臨床検査専門医会、日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会など臨床検査の職能団体や業界団体はいくつかあるが、支援協会は職種横断的な組織として、臨床検査の人材育成や質向上に関わる支援をする。

具体的には、5つの委員会（技術向上支援委員会、精度の確保に関する委員会、学術講演会開催委員会、講演会支援委員会、臨床検査普及啓発広報委員会）を設置。各団体が実施している臨床検査技能認定試験の研修支援、検体検査の精度向上や質の確保を目的とした講習や研修を推進する。また、臨床検査の関連学会や団体との共催セミナーの企画や開催、医学講演会への講師派遣などのアドバイスも行う。一般市民を対象にした臨床検査の啓発、認知度向上にも取り組む。

理事長の渡邊氏によると、2005年に中国地方出身の臨床検査関係者が懇親する会として「山陽本線の会」を立ち上げた。その後、同会が発展し「明日の臨床検査を考える会」となり、07年からは日本臨床検査医学会のランチョンセミナーの企画や講演の支援をしてきた。こうした活動を踏まえて、会のメンバーだった小川氏から臨床検査全般を支援する組織を立ち上げてはどうかという提案が挙がった。他のメンバーの賛同もあり、法人設立に向けて動き出したという。18年1月に東京都から特定非営利活動法人の認証を取得、2月に正式に設立した。

### 職種・世代横断で活動

渡邊氏は、臨床検査関係の団体や医療機関には「臨床検査の研修講師を紹介してほしい」「講演会の企画についてアドバイスがほしい」など、各種事業や業務を進める中で支援のニーズがあると指摘。一方で、病院の検査室を退職した臨床検査技師などシニアの人材の中には、それまで蓄積した知識や技術を生かせる場がないケースがある。このため、会の活動を通して、退職後の臨床検査技師などシニア人材の活用につなげたいと説明した。臨床検査の関連団体の事業の隙間にある課題の解決を支援していく考えで、職種や世代横断的に活動できると抱負を述べた。

初年度は、賛助会員（年会費：個人3000円、団体5万円／一口）を募り、活動の基盤を整える。事務所は東京都内に設置し、ウェブサイトhttps://www.ascl.or.jpを開設した。